

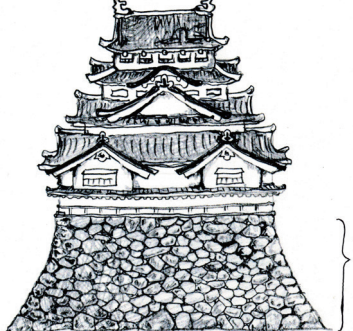
【織田信雄が築き、蒲生氏郷も入った「松ヶ島城」(お城編)】

戦国時代	室町時代	永禄 12 年 (1569 年) 大河内城の戦い。織田信雄、北畠具房の養子となる。信雄、大河内城城主となる。
		天正元年 (1573 年) 室町幕府滅亡。
		天正 3 年 (1575 年) 信雄、北畠家の家督を継ぐ。居城を田丸城に移す。
		天正 8 年 (1580 年) 田丸城焼失。 ★松ヶ島城築城
		天正 10 年 (1582 年) 本能寺の変で信長討たれる。清須会議後、信雄、清須城に居城を移し、津川義冬を松ヶ島城に置く。
	安土桃山時代	天正 12 年 (1584 年) 信雄、義冬らを殺害、小牧・長久手の戦い勃発。信雄実質的に敗北し、その結果、蒲生氏郷に南伊勢が与えられる。 ★蒲生氏郷、松ヶ島城に入る
		天正 13 年 (1585 年) 松坂城築城開始。松ヶ島城の資材、転用される。
		天正 16 年 (1588 年) 松坂城築城。 ★氏郷、松坂城に移る

松ヶ島城関係年表



図 1 松ヶ島城の天守台跡



皆さん、図 1 を見てください。何本かの木が生え、草がおい茂った小山が写っていますね。これは何だと思いませんか？ ——答えは、松ヶ島城（松ヶ島町）というお城の天守台跡と言われているものです。今回は、この松ヶ島城について紹介します。

○織田信雄が築いた城

松ヶ島城は、織田信雄が築いた城です。信雄は、織田信長の次男で、永禄 12 年（1569 年）の大河内城の戦い⁽¹⁾の後、北畠具房の養子となり、さらに天正 3 年（1575 年）に北畠家の家督⁽²⁾を継ぎ、南伊勢を治めました。はじめ、信雄は大河内城（大河内町）を居城⁽³⁾としていましたが、家督を継いだときに居城を田丸城（度会郡玉城町）に移しました。しかし、その田丸城は、信雄が入った 5 年後の天正 8 年（1580 年）に火事により焼失してしまいます。そこで、同年、信雄は新たに現在の松ヶ島町内に松ヶ島城を築いたのです。ちなみに、松ヶ島は、

古くは「ほそくび」または「ほそくみ」と呼ばれており⁽⁴⁾、城を築いたときに信雄が「松ヶ島」という名前に改めました⁽⁵⁾。では、松ヶ島城とは、どのような城だったのでしょうか？

○明治時代の地図や古文書などからわかる松ヶ島城の様子

残念ながら、現在の松ヶ島には当時の城の面影はほとんど残っていません。しかし、明治時代の初期に描かれた「伊勢松ヶ嶋村図」(裏面 図 4) を見ることで、当時の城の様子をうかがい知ることができます。では、図を見ながらその様子を見ていきましょう。

図を見ると、まず目にとまるのが、まるで水に浮かぶ島のような松ヶ島の地形です。現在の松ヶ島とその周辺は陸地化しているため、なかなか想像することは難しいですが、図によると、昔の松ヶ島は、東は伊勢湾に、西は 2 本の川の河口に、北は三渡川の河口や中里川に囲まれた、“島” のような地形であったようです。松ヶ島城には、それら海や川を引き入れた内堀、外堀もつくられていました。

図中の「天主跡」・「堀ノ内」と記された内堀に囲まれた一画が、松ヶ島城の本丸であったと考えられています。この天主⁽⁶⁾跡というのが、上の図 1 の天守台跡にあたります。また、本丸の西の「丸之内」、南の「殿町」と記された場所は、それぞれ二ノ丸、三ノ丸にあたると考えられています。本丸の東の「どだい」には、戦のときに本丸を海側から攻めにくくする役割があったのかもしれない。

松阪市史収録の『松ヶ嶋軍記』には、「細頸城建ツ。五重ノ殿守ヲ明ヶ普請力出来」という記述があり、また、天守台跡からは、安土城（滋賀県近江八幡市）⁽⁶⁾と同じ形の金箔のついた瓦の破片が見つっています。これらのことから考えると、松ヶ島城には、金箔の瓦で屋根を葺いた五層の天守がそびえ立っていたのかも知れません。そのほかにも、松ヶ島城のものと言われる鯰瓦(図 2)なども伝わっています。そして、『松ヶ嶋軍記』には天正 9 年 (1581 年) 8 月のこととして「松賀嶋ノ城二於テ、信忠、信雄、信孝兄弟替々舞楽ヲシ玉フ也」という記述があります。信長の 3 人の息子たち⁽⁷⁾が、松ヶ島城で舞を舞うことがあったとすると、なんだかロマンを感じますね。

○その後の松ヶ島城

天正 10 年 (1582 年)、信雄は、信長が討たれた本能寺の変の後の清須会議⁽⁸⁾によって、尾張国（現在の愛知県西部）も領有することになりました。それにともない、信雄は清須城（愛知県清須市）へ移り、松ヶ島城には家臣の津川義冬という人物を配置しました。しかし、その後、信雄は豊臣秀吉と対立し、義冬が秀吉側についたのではないかと疑い、義冬を含む 3 人の家臣を長島城（桑名市）で殺害してしまいます。そして、これが発端となって小牧・長久手の戦い⁽⁹⁾が勃発、松ヶ島も戦場となりました。

戦いは信雄の実質的な敗北に終わり、その結果、信雄の領地であった南伊勢は蒲生氏郷に与えられました。氏郷は、天正 12 年（1584 年）に松ヶ島城に入りますが、1 年後には松坂城の築城をはじめます。このとき、松ヶ島城は解体され、松坂城の資材にされたと考えられています。それを物語るものとして「天正七年」の線刻がある瓦の破片(図 3)が松坂城跡の発掘調査で見つっています。氏郷は、天正 16 年（1588 年）に松坂城に移りました。

○おわりに

松ヶ島城は、天正 8 年に織田信雄によって築城され、天正 16 年に蒲生氏郷が松坂城に移るまでのわずか 8 年間ほどしか存在しませんでした。さらに、江戸時代以降、松ヶ島城は、その周囲の埋立てや開墾のために土などが削り取られ、今ではその姿かたちは見る影もありません。現在、私たちが目にしている天守台跡の姿は、まさに“つわものどもが夢のあと” のようですね。（担当）

(6) 織田信長が天正 4 年から天正 7 年にかけて築いた城。 (7) 信長の長男が信忠、次男が信雄、三男が信孝。 (8) 信長の後継者や織田家の領地の配分などを決めた会議。
(9) 「信雄・徳川家康」対「豊臣秀吉」の合戦。

※今回のはにわ通信を書く際、『三重県史 通史編 近世 1』（三重県、2017 年）、『松阪市史 第 3 巻 史料篇 古代・中世』（松阪市、1980 年）収録の「勢州四家記」・「松ヶ嶋軍記」、当センター特別展図録『氏郷の遺したもの』（2011 年）・『氏郷の城と町 - 松阪の誕生と発展 -』（2016 年）、冊子「松ヶ島城跡」（松ヶ崎まちづくり協議会）などを参考にしました。また、過去の「はにわ通信」は当センターの HP(<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/haniwatusin-h30nendo.html>) でもご覧いただけます。

文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

12 月の休館日は、3 日（月）、10 日（月）、17 日（月）、25 日（火）、12/29 ～ 12/31、1 月の休館日は、1/1 ～ 1/3、7 日（月）、15 日（火）、21 日（月）、28 日（月）です。
開館時間は 9：00 ～ 17：00 です。

【はにわ館】 入館料 100 円（18 歳以下無料） * 入館は 16:30 まで

第 1 展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

第 2 展示室 ■はにわ館特別展「人とともに生きた馬」 12/9（日）まで

【ギャラリー】 入場無料

第 1G ■第 55 回 梅美展 梅村幼稚園・三重中学校・三重高等学校作品展
12/7（金）～ 12/9（日）10:00 ～ 17:00 ※最終日は 15:00 まで

第 2・3G ■景観絵画展 ～わたしの好きなまつさかの風景～ 12/8（土）10:00 ～ 16:00 、12/9（日）10:00 ～ 15:00

第 2・3G ■第 25 回 三重県立松阪工業高等学校繊維デザイン科 卒業制作展
12/13（木）～ 12/20（木）9:00 ～ 17:00 ※最終日は 12:00 まで

【発行】松阪市文化財センター 【電話】0598-26-7330 【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>



図 2 鯰瓦



図 3 「天正七年」の銘が入った瓦片

(1) 室町・戦国時代に南伊勢を治めた北畠氏と織田信長の戦い。「はにわ通信 平成 30 年 5 月号」で紹介。 (2) 家長としての地位や身分。 (3) その地域を治める領主が住む城。
(4) 「ほそくび」・「ほそくみ」は漢字では細頸・保曹久美・細波・細組などの表記があります。 (5) 「まつがしま」も、松ヶ島・松ヶ嶋・松賀嶋などの表記があります。
(6) 「てんしゅ」も、天守・天主・殿守などの表記があります。



図4 伊勢松ヶ嶋村図 (公益財団法人 三井文庫所蔵) より抜粋